

科目区分	専門教育科目	科目名	音楽演習		科目コード	21Y780	担当者	中澤 伸元、中村 浩美				
対象学生	幼児教育学科 2年生		学期区分	通年	単位数	2	担当形態	複数				
			授業形態	演習								
科目			施行規則に定める科目区分又は事項等				卒業要件	選択				
							免許・資格要件					
科目の主題							学修成果との関連 (大◎、中◎、小△)					
「音楽」は人の心を動かすたくさんの事を表現できます。その音楽を保育者としてどう捉えるか、また、子ども達にどう伝えて楽しんでもくれるかを、「声」や「発声」や「言葉」や「表現」などを研究します。そして研究・練習を通してメンバーみんなで作り上げた作品を発表する授業。							1. 「良心」 誠実な人柄と 人間力	2. 「創造」 高度な知性と 創造力	3. 「実践」 明確な意思と 実践力			
科目の到達目標							① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 表現力・創造力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	自分を知り、何を課題として1年間の学びとするかの意識を持つこと。						◎	◎	◎	◎	◎	◎
2.	本気でこの演習に臨み、自らの学びを習得すること。											
3.	歌唱における発声法を身に付けられること。											
4.	羞恥心無くし、人の前での演奏・演技を研究し合えること。											
5.	グループ内で協調性を持ちながら、意見を出し合い発表に向けての積極性ある活動ができること。											
授業方法							成績評価の方法と割合					
・歌うことに必要な体の使い方を指導し、全員で確認し合う ・発声法の基礎を指導する ・歌詞(言葉)の大切さと表現力を高めていく ・このゼミナールにとって何が保育者として必要なかを理解しながら実践に繋げる							受講態度 (50%) 発表内容 (30%) 保育者として保育所保育指針を基礎に研究し、実践できたかを評価する (20%)					
課題等への対応							授業外学修時間					
・授業計画に沿って意識を高く持ちながら目標に向かうための努力をしているかをチェックして指導する。							授業1回当たり90分					
回数	授業計画						学習課題 (予習・復習)					
第1回	何のためにこの科目を履修したか個々に発表し合う。自分を見つめ直し、他のメンバーの思いも受け入れられ事に意識をもつ。						何が目的で履修したかを発表できるようにしてくる。					
第2回	保育者になるためにどのような研究をしどのように成長したいかを話し合い討議する。自分を見つめ直し、他のメンバーの思いも受け入れられ事に意識をもつ。						自分の好きなところ、変わりたい事を発表できるようにする。					
第3回	声を出すための体全部の筋肉の使い方を学び実践する。歌唱に必要な筋肉を使っの練習でそれぞれの良い点課題点を発表し合う。						ブレスや筋肉の使い方を復習してみる。					
第4回	声を出すための体全部の筋肉の使い方を学び実践する。必要な筋肉を使っの練習でそれぞれの良い点課題点を発表し合う。						ブレスや筋肉の使い方を復習してみる。					
第5回	声を出すための体全部の筋肉の使い方を学び実践する。歌唱に必要な筋肉を使っの練習でそれぞれの良い点課題点を発表し合う。						ブレスや筋肉の使い方を復習してみる。					
第6回	地声とファルセットの変わり目を子どもの曲で見極めてみる。地声とファルセットを使っの地声の歌い方とミックスボイスのみで歌えるかを試してみる。						地声とファルセットのチェンジ箇所を復習してくる。					
第7回	地声とファルセットの変わり目を子どもの曲で見極めてみる。地声とファルセットを使っの地声の歌い方とミックスボイスのみで歌えるかを試してみる。						地声とファルセットのチェンジ箇所を復習してくる。					
第8回	言葉の持つ意味を考える。歌詞の読み方・イメージ力をつける。						歌にはメロディーだけが持つ豊かな表現ではなく言葉の大切さを考えながら練習してくる					
第9回	お話し立ての子どもにふさわしい曲を歌う。絵本の読み聞かせのような歌詞の読み方からイメージ力をつける。						子どもが興味を持つ曲を演じながら歌えるよう練習してくる。					
第10回	お話し立ての子どもにふさわしい曲を歌う。絵本の読み聞かせのような歌詞の読み方からイメージ力をつける。						子どもが興味を持つ曲を演じながら歌えるよう練習してくる。					
第11回	言葉の持つ意味を考えながら子どもの曲を歌う。歌詞の読み方・イメージ力をつける。						子どもが興味を持つ曲を演じながら歌えるよう練習してくる。					
第12回	学祭に際して何を伝えたいかを考え選曲し練習する。候補曲の構成や言葉の解釈やイメージを話し合う。						メロディーのみではなく何をどう伝えたいかの言葉を重要視して各々選曲してくる。					
第13回	学祭での選曲のパート分けと音取りをする。パートリーダーとピアノ伴奏者を決めて練習する。						各パートの音取りを個人でも練習して授業で合わせる。					
第14回	学祭の曲作りをする。歌詞読みを中心に意味を考えて理解する。						奏でたい曲をメンバーが一つになるためのイメージ練習をしていく。					
第15回	学祭本番練習してきた内容がどれくらい伝えられたか反省点は何かを考える。						授業で学んだ事発見したことを思い出してみる。					
第16回	ゼミナール発表の報告集政策をする。ゼミの発表で何を題材にするか、シナリオ政策と選曲。						保育所保育指針に沿った報告文書として完成させる。					
第17回	ゼミナール発表の報告集政策をする。何を伝えたいのか、保育所保育指針の研究を生かす。						保育所保育指針に沿った報告文書として完成させる。					
第18回	役作りを徹底的にして特徴を出す稽古をする。シナリオを完成させて選曲しながら役を決める。						シナリオと選曲を完成させて役を決めセリフ読みをしていく。					
第19回	役作りを徹底的にして特徴を出す台詞稽古をする。シナリオの手直しをしながらの稽古。並行して音楽稽古						各々台詞や動きを含めての役作りをしていく。					
第20回	シナリオから生まれる場面や役の演出を考えながら意見を出し合うセリフ読みの練習とソロ曲とユニット曲の練習						各々台詞や動きを含めての役作りをしていく。					
第21回	手直しをしながら演出を進める・音楽稽古をする演出や背景など道具の作成も並行して行う						役割を決めて舞台上の飾りや衣装を完成させていく。演技と演奏も練習してくる。					
第22回	個々の役での台詞読みと動きを全員で見合いながら意見を出し合う。役作りの完成練習と、音楽練習						再度の役作りと演出の思い出稽古。音楽稽古丁寧にしていく。					

第23回	個々の役での台詞個々の役での台詞読みと動きを全員で見合いながら意見を出し合う。 役作りの完成練習と、音楽練習。	再度の役作りと演出の思い出し稽古。音楽稽古丁寧にしてくる。
第24回	全員での演出を交えた稽古と確認をする。 シナリオから生まれた場面効果は勿論、何故その演出になるのかの再確認と手直しをする。	自分の台詞だけではなく他の役の台詞との繋がりを考えながらの復習をしていく
第25回	演出効果を高める練習をする。 各々のソロ曲・ピアノ伴奏・ユニット練習を並行して行う	メンバーだけではなく各々も演出を考えてくる
第26回	通し稽古をする。 各々のソロ曲・ピアノ伴奏・ユニット練習を並行して行う	シナリオの持つ意味を再度確認しての台詞・音楽の復習と新たな発見を見出していく
第27回	衣装を着ながら、小道具を使いながらの通し稽古をする。 舞台上の壁面大道具、小道具、衣装の政策を並行して行う	シナリオの持つを再度確認しての台詞・音楽の復習と新たな発見を見出していく
第28回	衣装を着ながら、小道具を使いながらの通し稽古をする。 舞台上の壁面大道具、小道具、衣装の政策を並行して行う	出来上がった作品をさらにイメージしながら個別練習をする
第29回	本番動揺の通し稽古をしながら最終チェックをする。 実際に制作した全ての物の最終チェック	出来上がった作品をさらにイメージしながら個別練習をする
第30回	ゼミナール発表会本番 先生という女優として人の前で研究練習してきた事がどれくらい表現できたかを振り返る	メンバーが一つになって子どもが観ている事もイメージしながら研究した作品をどこまで出せるか
試験	定期試験を実施しない	
教科書	なし	受講生へのメッセージ  子ども達がうたを歌って、うたを聞いて、楽器を奏でて、ステージや音楽テレビ番組を観て、どんな発見、どんな感情・どんな表現・どんなイメージを持つのでしょうか。考えたことはありますか？子ども達にとって、音楽がどんな意味をもたらすのか、何を生み出せるか、何を伝えられるかを研究しながら、保育者として働くためのステージ表現として本気で取り組む学生を希望とします。
参考書等	保育所保育指針 各教員が所持している本や楽譜	